

平成27年度 南アルプス市立若草小学校 第二回自己評価書

若草小学校
校長 森田 亨

本年度の学校教育目標

- かしこい子ども
- 美しいものに感動する子ども
- 思いやりのあるやさしい子ども
- たくましく生きぬく子ども

本年度の学校経営基本方針

- (1) 「生きる力」を育むために調和のとれた教育課程の編成と円滑な実施に努める。
- (2) 確かな学力を育むための指導と評価に努める。
- (3) 豊かな心を持った人間味あふれる子どもの育成に努める。
- (4) たくましく生きるための健康と体力の向上に努める。
- (5) 家庭や地域社会との連携のもとで、安心・安全で信頼される学校づくりに努める。
- (6) 教職員が相互に協調・信頼し合い、創意と活気に満ちた学校づくりに努める。

1 評価方法

児童、保護者、教職員の3者に対して、アンケート用紙により回答を得た。

質問に対する回答選択肢は4段階になっている。

- A：そう思う
- B：ほぼそう思う
- C：あまりそう思わない
- D：そう思わない

の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで、各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、

- 「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）
 - 「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価）

と判断をした。

2 全体評価

I 学校生活について

【学校生活について（後期） 考察】

1の項目「学校は楽しいですか」について

「学校が楽しい」と感じている割合は、児童・保護者ともに高い。1学期同様、肯定的な回答の中で「ほぼ」の割合は保護者の方が高く、児童の結果と比較すると楽しいと感じている割合に相違がみられる。特に1年生と3年生の保護者の否定的な回答が4.2%から17.0%(1年)、2.5%から11.4%(3年)と増え、大きな相違となっている。結果を分析し、早急に対応していきたい。4年生の児童の中で、「そう思わない」と回答している児童が2.5%いるが、他学年は解消されている。全校児童では否定的な回答をした児童が4.7%いる。児童全員が楽しいと思える学校生活を送ることができるよう改善を図りたい。

2の項目「みんなで力を合わせががんばっている」について

学校生活を送る上で、良好な人間関係を築いていくことは大切である。一人ひとりが学級への所属意識を持ち、存在感を実感できることが大切である。児童アンケートでは、前期と同様に後期のアンケートでも、「みんなで力を合わせががんばっている」と感じている割合は高い。しかし、保護者アンケートにおいて、3年生の否定的な割合が、3.8%から10.1%と高くなっている。5年生児童の肯定的な回答の「そう思う」の割合が43.9%から38.1%となっており改善されていない。2学期の取り組み結果を反省し、3学期において改善を図りたい。

3の項目「困った時に誰かに相談できる」について

児童は、日常生活の中で様々な困難に遭遇する。一人で考えこんだり悩んだりせずに、相談できる人がいることはとても大切である。肯定的な回答は約9割あり、1学期に引き続き概ね満足できると考える。否定的な回答が3年生では9.9%から12.2%、5年生では6.1%から14.4%と1学期より悪い結果となっていた。保護者アンケートについても10.8%から12.9%とやや悪い傾向にあり、相談しやすい体制を今まで以上に構築していく必要がある。一人ひとりの児童にしっかりと目を配り、児童が孤立しないような指導を心がけていきたい。

4の項目「あいさつ」について

児童会やPTAの協力も得て、学校全体であいさつ運動に取り組んできた。1学期同様に児童のあいさつに対する意識の割合は高いが、保護者の否定的な割合は高い。学校や地域の中で元気よくあいさつができるよう今後もあいさつ運動の取り組みを充実させていきたい。

5の項目「係や当番の仕事・そうじ」について

係活動や清掃活動はとても進んでよくやっている。これからも校内美化や環境整備に努め愛校心を育てる教育活動を展開していきたい。

【学校生活について 改善策】

- 友だち関係でトラブルは交流が深まっていく過程ととらえ、お互い納得して前に進めるようきめ細かく指導していく。(1年)
- 学級・学年で子どもたちが居心地のよい学級づくり、コミュニケーションが上手にとれるような指導をしていく。(3年)
- あいさつについては、保護者の評価が低い。家庭や地域でも、自分から進んであいさつができるように呼びかけていく。(3年)
- あいさつや当番活動について児童と保護者の認識に隔たりがある。お便り等で児童の実態を伝え、啓蒙していく。親子のコミュニケーションをもっと図るための呼びかけを行っていく。(4・6年)
- 6年生を送る会などの取り組みにおいて、一人ひとりに自覚を持たせ、「協力」することを常に意識させていきたい。(5年)

II 学習指導について

【学習指導について（後期） 考察】

1の項目「学校の授業がわかる」について

「学校の授業がわかる」ことは、学校生活を送る上で最も大切なことの一つである。児童・保護者ともに肯定的な回答が90%以上あり、概ね満足できる結果である。保護者の回答も肯定的な意見が多いが、「そう思う」の割合が1年生以外はすべて児童を下回っている。保護者への理解と協力を得る中で、さらなる授業改善に努力していく必要がある。否定的な回答をした4.4%の児童に対し、授業を楽しく感じられるように、基礎基本を大切にしたいわかる授業を展開していきたい。

2の項目「先生や友だちの話をしっかり聞く」について

話を聞く態度の育成には、校内研究会等を通し全職員で研究を進めてきた。児童の肯定的な回答が多く、集中して授業に取り組んでいる。5年生の保護者では1学期14.7%、2学期10.5%が否定的な回答をしており、やや改善されている。しかし、保護者は高学年になるに従い「そう思う」の割合が低下している。まとめの時期に入るが、今まで以上に授業改善を図り保護者への理解を深めていきたい。

3の項目「授業中の発言」について

発言をすることに対して、保護者アンケートではどの学年も肯定的な回答が90%以上であった。それに比べ、児童アンケートでは、肯定的な回答は全校で76.3%と大きな差がある。特に5・6年生の「そう思う」の割合が17.5%（5年）、39.5%（6年）であり、否定的な意見は5年生で52.6%と半数を超え、1学期より大きく下がってしまった。自分の考えを伝え合う学習を取り入れ、授業方法を工夫してきたが、さらなる改善が必要である。

4の項目「宿題や自主学習」について

家庭学習については、児童・保護者ともに否定的な割合がやや増えている。特に保護者は21.2%から25%に増え、全アンケートの中でも最も否定的な割合が高い項目になっている。1学期・2学期と学期1回行われる家庭学習強化週間などを通し、呼びかけを行ってきたが、十分に成果が上がっていない。学力の定着において家庭学習はとても大切である。家庭の協力を得ながら、今後も十分な定着が図れ

るように指導をしていきたい。

【学習指導について 改善点】

- できる限り個に応じた指導を心がけていく。わかりやすい板書など、授業改善に努める。また、教師一人での個別指導には限界がある。TT 指導ができる体制を希望していきたい。(1年)
- 家庭学習強化週間への取り組みを続け、自主学習の習慣が身につくよう継続して指導していく。(2・3・4年)
- 児童の考えを深めるような授業内容の工夫や、授業の中で全員が発言できるような場面設定を工夫していく。また発言しやすい環境づくりをしたりする。(5年)
- 指名によって意図的に発言する機会を増やしていく。(6年)

Ⅲ 生徒指導について

【生徒指導について（後期） 考察】

1の項目「きまりや約束を守る」について

児童の生活の中心は学校生活であり、学校の約束や決まりを守り生活できることはとても重要である。児童も保護者もほぼ90%以上が肯定的な回答をしており、1学期に引き続き満足できると結果と考えられる。特に最高学年の6年生では、肯定的な回答が100%であった。一方、全校では3.5%の否定的な回答をした児童も存在している。一人ひとりの児童にしっかりと目を向け、指導にあたりたい。

2の項目「いじめや悪いことをしたら先生や友だちに言う」について

いじめや非行行動に対し、先生や友だちに言えると多くの学年で肯定的な回答の割合は高い。しかし、1学期同様、1年生17.5%、3年生13.6%、5年生22.7%の児童が否定的な回答をしている。いじめや非行行動の未然防止や早期発見・早期対応は重大事案に対処する基本であることから、いじめや悪いことをしている人を見たら早期に先生や友だちに伝えることに重点を置いて指導していきたい。

3の項目「学校はいじめのない学級づくりに取り組んでいる」について

いじめのない学級づくりは、最も大切にしたい学級経営の一つである。保護者の回答では、3年生15.4%、4年生12.7%、5年生17.4%と3・4・5年生で否定的な回答が高い。6年生では改善されたが、3年生の保護者では、91%から84.6%に下がっている。全ての児童がいじめのない居心地がよいといえる学級づくりを目指して学級経営にあたりたい。

【生徒指導について 改善点】

- 授業や学校生活の中で「思ったことを伝える」ことを習慣づけることが、いじめや悪いことを見たら伝える子どもたちに繋がっていくと考える。全職員での共通理解のもと、日頃の指導を徹底していく(1年)
- 一人ひとりの児童の課題を職員全員が把握し、問題を見過ごさないようにする。(1年)
- 善悪の判断がしっかりできるよう指導するとともに、より良い集団づくりを目指していく。(3年)
- 道徳などで、不正な行為を絶対に許さないという態度を育てる。また道徳公開授業ではいじめに関

- する授業を行い、保護者や地域住民に学校の取り組みを理解していただく。(4・5年)
- 心が解放されるような学級づくりに努める。(5年)
- 児童一人ひとりをしっかり見守っていく。直接言えないことを補う意味で、定期的にアンケートを取り状況を把握していく。(6年)

IV 学校経営について

【学校経営について（後期） 考察】

1の項目「学校行事」について

「学校行事は、子どもたちが楽しく参加できるように実施されている」の項目について、肯定的な回答が90%以上であった。児童は行事を通して多くのことを学んでいく。充実した学校生活を送るうえで学校行事の果たす役割は大きいと考える。運動会や学芸発表会など、学年の実態に合わせ趣向を凝らした内容となっている。今まで積み重ねてきた伝統を大切に、児童にとってより有意義な学校行事が展開されるよう努めたい。

【学校経営について（後期） 改善策】

- 学校行事に対して、高い評価を得ている。子どもの成長を実感しているからではないかと思われる。学習面や生活面での成果を、お便りを通して保護者に伝えていく必要がある。(1・6年)
- 地域・保護者と今まで以上に連携・協力し、よりよい学校づくりを行っていく。(3年)

V 研究について

【研究について（後期） 考察】

1の項目「校内研究会」について

県教委や市教委の指定を受け、大きな研究の成果を得ることができた。その研究の成果を引き継ぎ、若草小教育を実践し発展させてきている。100%の職員が主体的に校内研究会に参加し、授業力の向上に努めていると回答している。特に「そう思う」の割合が、59.4%から80.8%に改善されている。

「Ⅱ 学習について」の項目の中で、授業が分からないと回答した4.4%の児童、聞く態度や発言することに否定的な回答をしている23.7%の児童へ、今まで以上にきめ細かな指導を行っていきたい。また、家庭学習の在り方については保護者に十分な理解がまだ得られていない。今後もさらに研究を重ね、個々の授業改善を図り児童の学力向上に努めていきたい。

2の項目「特別支援教育」について

特別支援教育に対する校内支援体制については、「そう思う」の割合が100%であり、1学期以上に支援体制が向上していると考えられる。本校は特別支援クラスが4クラスあり、また普通学級の中にも支援を必要とする児童が在籍している。定期的に行われる特別支援校内委員会や臨時のケース会議などを通し、児童の情報交換を密に行い全職員が共通理解した上で支援を行ってきている。これからも一人ひとりを大切に、ともに学び合う学校づくりに努めていきたい。

【研究について 改善点】

- とても良い評価が得られた。校内研究会が有効な手段となっている。今後もさらに充実した研究を進め、一人ひとりの授業改善を図っていききたい。(6年)
- 特別支援体制が有効に機能している。校内委員会やケース会議などが適切に行われていた。今後も今まで以上に、密に情報交換を進めていききたい。(6年)

VI 施設・設備・安全管理について

【施設・設備・安全管理について（後期） 考察】

1の項目「安心・安全な教育環境」について

学校は、子どもにとって安心で安全な場所でなければならない。定期的に安全点検を実施し、子どもたちの過ごしやすい環境整備に努めてきた。保護者からは高い評価を得ている。安全点検、訓練、設備修理等をこまめに行い、児童の安全確保と事故防止について努力していることが評価されている。

2の項目「安全確保や事故防止」について

子どもたちの安全確保や事故防止についても、日々の指導の充実を図り、様々な場面を想定して訓練を実施している。また、保護者と連携し通学路の安全点検や登校指導を行ってきた。今後も、保護者や地域と一体となり、児童の安全確保や事故防止へのご協力をお願いし、安全教育を推進していききたい。

【施設・設備・安全管理について 改善策】

- 机・椅子が古く、がたつきなど学習にも影響している。市へ要望し、新しくして欲しい。(1年)
- 施設設備は老朽化しているが、定期的に安全点検や修理していることを伝えていく。また、市への要望の中で、順次老朽化を改善していく。特にトイレは「数が少ない」「臭いなど気になる」など問題があるため、環境改善を進めてほしい。(1・6年)

VII 保護者・地域住民との連携について

【保護者・地域住民との連携について（後期） 考察】

1の項目「情報発信」について

各種お便りや授業参観や学校行事の計画など、肯定的な回答が90%を超えている。保護者からの相談や要望に適切に対応しているについても高い評価を得ているが、学校と保護者とのよりよい関係が築けるよう、今後もさらに協力して良い連携をとっていかれたらよい。

2の項目「授業参観 学校行事」について

本校では、月に1度を目安に授業参観や学校行事などで保護者が学校や児童の様子を参観できる日を設けている。授業参観や学校行事の持ち方についてはとても良い評価を得ており、今後も保護者や地域に開かれた学校づくりを進めていきたい。

3の項目「保護者からの相談や要望に適切に対応」について

肯定的な回答が90%を超えており、職員一人ひとり努力している様子がうかがえる。肯定的な回答の中でも「そう思う」の割合がやや低い傾向にある。また否定的な回答が4.8%（内そう思う1%）みられ、今まで以上に丁寧な対応が求められる。また、保護者と教職員とを比較すると、「適切な対応」への意識にやや開きが見られる。これからも丁寧な説明と素早い対応に心がけ、信頼される学校づくりに努めていきたい。

【保護者・地域住民との連携について 改善点】

- 何か気づいたことがあったら、すぐに対応する。気になる児童には、保護者との連絡を密にとる。(5年)
- 今後も保護者の声に丁寧に耳を傾けるとともに、より密に連携していけるように信頼関係を気づいていきたい。(6年)

III まとめ

【前期学校評価より、今年度取り組む重点項目】

- すべての児童が、学校が楽しいと思えるような学校づくりを進める。
- PTAや地域の方々とも協力して、あいさつ運動を進めていく。
- 授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。
- 家庭学習を充実させる。
- いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたる。

成果と課題

- すべての児童が、学校が楽しいと思えるような学校づくりを進める。
 - ・児童会の「いいところ探そう大作戦」などの取り組みを活かし、一人ひとりの児童のよさを認める活動を進めてきた。校内放送や掲示物を使い、目に見える形で児童同士が良い点を評価し合えたと思う。
 - ・「困った時に誰かに相談できる。」については児童では10.5%、保護者では12.9%が否定的な回答をしている。心の中にある何らかの問題点を誰かに相談できることは、楽しい学校生活を送る上で重要なことであり、いじめや不登校などの未然防止につながっていくと考えられる。今後もマイナス傾向の児童にしっかりと目を向け、教育活動に取り組んでいきたい。

○PTAや地域の方々とも協力して、あいさつ運動を進めていく。

- ・児童会を中心に、あいさつ運動の取り組みを進めてきた。しかし、保護者の16.9%が否定的な回答をしており、改善されてはいない。また、児童との意識に開きがある。校内のあいさつ運動と連携し、保護者や地域にもあいさつ運動のお願いを継続して呼びかけていく。

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。

- ・保護者は、肯定的評価は 96.0%と高いが、児童は 1 学期の 80.7%から 76.3%と肯定的な評価が下がってしまった。授業の中で、発言する活動を今まで以上に取り入れたり、特定の児童だけではなく「全員発言」などの取り組みを行ったりしてきたが、大きな成果が得られなかった。特に高学年においてマイナス傾向が顕著である。自分の考えをしっかりと持ち、その考えを伝えていくことはとても大切なことである。問題解決学習や、協働学習など新たな学びを取り入れ一人ひとりの個性を尊重した授業を進めていきたい。

○家庭学習を充実させる。

- ・家庭学習強化週間や、学年や学級単位でミニ強化週間を設け家庭学習の定着を図ってきたが、保護者の肯定的評価は 78.6%から 74.8%と下がってしまった。家庭学習には保護者の協力が欠かせない。今後も保護者の声を聴く中で、家庭学習の定着に向けて取り組んでいきたい。

○いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたる。

- ・学校で行っているいじめアンケートなどから、いじめに該当する事案は起きていない。道徳教育や児童会活動の取り組みが、未然防止につながっていると考えられる。しかし「いじめや悪いことをしている人を見たら、先生や友だちに言う」では 13.3%の児童が否定的な回答をしている。いじめの問題では、「傍観者」と言われる児童を作らないことが重要である。全職員が共通理解をはかり、いじめは絶対に許さないという姿勢で、これからも指導にあたりたい。